

ワンパーセント
イオン1%クラブ vol.13



SMK DATO' ONN高校（マレーシア）にて盛大な歓迎を受ける日本の高校生（ティーンエイジ アンバサダー）

イオンワンパーセントクラブ活動レポート

イオンチアーズクラブ活動レポート

イオンチアーズクラブは小中学生を対象とし、環境や社会貢献に興味・関心を持ち、考える力を育む場として、全国約500店舗を拠点にさまざまな体験学習を行っています。



気候変動をテーマに発表するイオンチアーズクラブ日の出のメンバー。「未来のためにできること」を発表しました

2026年2月23日(月・祝)、イオンリテール株式会社南関東カンパニーの壁新聞最終審査会が東京都内で開催され、千葉、東京、神奈川、山梨の各予選会を勝ち抜いた15クラブが集まりました。

2025年度の南関東カンパニーの活動テーマは「気候変動(異常気象)」。

各クラブにおいてこの1年間学んできた成果が見事にまとまった力作が揃いました。

発表では、より分かりやすいように図や写真をボードにして使用したり、クイズ形式を取り入れたりするなどして、聞き手を上手に巻き込みながら発表を行いました。



南関東カンパニーで最優秀賞を受賞したイオンチアーズクラブ日の出のメンバー



「発酵と農業を学ぶ」をテーマに発表するイオンチアーズクラブカスミつくばのメンバー(茨城エリア最優秀賞受賞クラブ)



全国11エリアで「壁新聞最終審査会」開催 活動の成果を堂々と発表!



南関東エリアのイオンチアーズクラブメンバーと審査員の方々と記念撮影



「気候変動と防災」をテーマに作成したイオンチアーズクラブ日向の壁新聞(九州エリア最優秀賞受賞クラブ)

イオンチアーズクラブでは、1年間の自クラブの活動成果を模造紙一枚に表現し発表し合う「壁新聞審査会」を開催しています。

毎年各クラブが年度末に1年間の活動を振り返り、模造紙にまとめた壁新聞を作成しています。

各クラブは地域の予選会を経て、全国で11エリアに分かれて開催される「壁新聞最終審査会」へ進出します。

「壁新聞最終審査会」では、35の上位入賞クラブを選出。選出されたクラブは、イオンワンパーセントクラブが7月末に沖縄で開催する2泊3日のイオンチアーズクラブサマーキャンプに参加し



イオンチアーズクラブ那覇のメンバーは「SDGs」をテーマに発表を行いました(沖縄エリア最優秀賞受賞クラブ)

ます。「壁新聞最終審査会」には寄付企業各社社長のほか、自治体関係者や株式会社朝日学生新聞社の方々などに審査員としてご参加いただき、壁新聞の出来栄や発表内容を評価いただきました。

今年も各クラブは、表現方法など工夫を凝らして、学びの成果を伝える壁新聞を作成しました。予選を通過したクラブは、「壁新聞最終審査会」に向け、発表の直前まで練習を積み重ねており、当日は熱意にあふれる発表に審査員はじめ聴衆の皆さまから感激の言葉が聞かれました。

審査員総評

審査をするのは3回目ですが、内容も表現力も年々アップしていて、感服しました。これはメンバーの小中学生の皆さんと、活動を支えるコーディネーターさんなど周囲の大人の力だと思います。この素晴らしい地域での活動をぜひ続けて欲しいです。



株式会社朝日学生新聞社 取締役会長 高田圭子氏



イオン チアーズクラブライカムから10名のメンバーが参加しました

イオンチアーズクラブ「お仕事体験」

イオンチアーズクラブライカムのメンバー10名は18日(日)、わくわくキャッシュレス体験に参加したほか、自各コーナーに立ち、スタッフとしてお客さま対応を体験しました。



お客さまのお金の重さ体験をサポート

最初は緊張もあつて、参加者の方々になかなか声をかけることができなかつたり、うまく説明するのに苦労していたメンバーたちでしたが、慣れてくると「お客さまから『ありがとう』と言ってもらえるのがうれしくて、スタッフ役が楽しくなってきました」という声が聞かれました。
今後もこうしたイオンチアーズクラブのメンバーたちがお客さまと直接接し、主体性や責任感を育む機会を、全国各地で提供していきます。



参加者のお子さまに1億円分のお金の重さを体験いただきました



イオンチアーズクラブメンバーが運営スタッフになって「お仕事体験」



「わくわくキャッシュレス体験」はイオンモール沖縄ライカムの1階グランドスクエアで行われ、大盛況となりました



お子さまに電子マネーをかざすキャッシュレス決済を体験いただきました

参加いただいたお子さまからは「手のひらを使ってお買い物ができることにビックリした。未来のお買い物体験ができて楽しかった」という感想があったほか、保護者からは「子どもが手のひら決済でお買い物をしたり、楽しそうにキャッシュレス体験する姿を見て成長を感じました」という声が寄せられました。

今回のイベントから新たに導入した「手のひら認証によるお買い物体験」コーナーでは、まず参加者に現金払いと電子マネーによるキャッシュレス決済で支払いにかかる時間の差を体験いただきました。また、自分の手のひらを使った最新のお買い物方法で、生体認証決済の利便性を体感いただきました。



沖縄エリアでは初となる「わくわくキャッシュレス体験」をイオンモール沖縄ライカムで開催!

2026年1月17日(土)と18日(日)、イオンモール沖縄ライカムで金融教育イベント「わくわくキャッシュレス体験」のしくまなぶお金のミライ」を実施しました。2日間で来店されたお子さまとその保護者など約900名の方々に参加していただきました。このイベントは本年度通算10回目の開催で、沖縄エリアでは初開催となりました。



マレーシアの学生を交えて行われた授業体験の様子

11月14日(金)から2泊3日で、ペアとなった日本の高校生の家庭にてホームステイを実施。また、日本の学校での授業体験を行いました。同年代の若者と同じ時間を過ごすことで、国境を越えた友情を育みました。



交流活動

11月13日(木)、高校生たちは埼玉県と三重県の2地域に分かれて活動しました。埼玉県では堀光敦史副知事を表敬訪問し、首都圏外郭放水路の見学や木目込み人形造りを体験。三重県では一見勝之知事を表敬訪問し、鈴鹿墨の工房見学と墨造り体験、パラミタミュージアムの見学を通して、日本の伝統と文化に触れる貴重な時間を過ごしました。



歴史・文化活動

2026年1月19日(月)〜24日(土)の期間で、マレーシアプログラムを開催。日本プログラムで再会を約束した高校生たちが、今度はマレーシアの地で活動します。



表敬訪問活動

1月20日(火)、マレーシア首相官邸を表敬訪問し、ムハンマド・フィキリ・ビン・ハリド政治秘書特別補佐官よりご挨拶をいただきました。在マレーシア日本国大使館では、松尾圭悟二等書記官による講演と、大使館職員との交流会を行いました。その後、歓迎会を開催し四方敬之大使にもご参加いただきました。



日本の学生からムハンマド・フィキリ・ビン・ハリド政治秘書特別補佐官に記念品が贈られました

1月21日(水)には、クアラルンプール教育局のアジズ・ビン・ハシム副局長への表敬訪問と、議会議事堂の見学を行い、高校生たちはマレーシアの政治の中枢を肌で感じ、「小さな大使」としての役割を再認識しました。



日本の学生はマレーシアの家庭に温かく迎えられました

1月22日(木)からは、マレーシアでもホームステイと学校体験を実施しました。現地の家庭料理を味わい、生活習慣を肌で感じました。最終日のフェアウェルパーティーでは、別れを惜しみながらも、これからは両国の架け橋であり続けることを誓いました。



交流活動

1月21日(水)の午後からは、マレーシアの伝統工芸品である「バティック染め」を体験しました。またUNESCO世界遺産であるFRIMセラランゴール森林公園でのトレッキングや、ペトロナスタウンタワーの見学などを通じて、マレーシアの豊かな自然と歴史・文化について学びました。



歴史・文化活動



在マレーシア日本国大使館前にて記念撮影

アジアの国々をつなぐ 友好の輪 ティーンエイジアンバサダー

今回の参加校

● 日本の参加校

筑波大学附属坂戸高等学校 (埼玉県)
三重県立四日市高等学校 (三重県)

● マレーシアの参加校

SMK DATO' ONN (クアラルンプール)
SMK COCHRANE PERKASA (クアラルンプール)

各校から10名の生徒が参加し、総勢40名で活動しました。

24年ぶりの日馬交流プログラムを実施

2025年度日本・マレーシア ティーンエイジ アンバサダーを開催しました。マレーシアとの交流プログラムは実に24年ぶりで、マレーシア現地を訪問するプログラムは今回が初めてとなります。2025年11月には日本プログラム、翌年1月にはマレーシアプログラムを実施し、両国の高校生たちが「表敬訪問活動」「歴史・文化活動」「交流活動」の3つの活動に取り組みました。

参加者の声

三重県立四日市高等学校 生徒の保護者

参加者本人だけでなく、家族も貴重な経験をさせていただきました。パートナーの受け入れ準備を進める過程で、宗教や文化の違いについて、多くのことを学ぶ素晴らしい機会となりました。参加した本人は、自国の文化を改めて見つめ直し、広い世界を知る大きな一歩になったことと思います。

筑波大学附属坂戸高等学校 生徒の保護者

日本でのホームステイ中は、親の私たちも楽しい時間を過ごすことができました。マレーシアでのホームステイでも、ご家族に温かく迎えていただき、子どもも感激していました。今も時々メールのやりとりをしています。この体験を通して、海外の高校生とつながることができ、以前よりも視野が広がったように感じます。

三重県立四日市高等学校 生徒

マレーシアの生徒との交流に不安を感じていましたが、実際に参加してみると自分と何ら変わらず、冗談を言い合えるほど仲良くなれました。プログラムを終えて、海外と日本に良き友人がたくさんできただけでなく、自分の将来についてきちんと考え直すきっかけになったと思います。今までは漠然とグローバルな活動をしたいと考えていましたが、今回のプログラムでその気持ちがさらに強まりました。

筑波大学附属坂戸高等学校 生徒

今回のプログラムを通じて、マレーシアの文化やその背景を学ぶことが相互理解の一助となるだけでなく、共に笑い合いあったり、気持ちを通わせたりする。そうした人間的な瞬間こそが、深い友好関係を築く基盤になるという、自分なりの答えを見出すことができました。



マレーシアの学生から、尾崎正直内閣官房副長官に記念品が贈られました

2025年11月10日(月)〜15日(土)の期間で、日本の高校生20名とマレーシアの高校生20名がペアを組み、日本で活動しました。

表敬訪問活動

11月11日(火)に、首相官邸を表敬訪問し、尾崎正直内閣官房副長官よりご挨拶をいただいたほか、国会議事堂では岡田克也衆議院議員(当時)より日本の政治制度についてご説明いただきました。また、在日マレーシア大使館での表敬訪問・交流会では、シャフリル・エフェンディ・アブドゥル・ガニー大使よりご挨拶いただきました。11月12日(水)には外務省を訪問し、青木隆地域調整官より日本とマレーシア両国の外交関係についてレクチャーいただき両国の関係について学びました。その後、生徒たちは日本の高校生の出身地域に分かれて活動しました。



修了生と当財団の理事・監事・評議員等の方々と集合写真を撮影

2026年2月27日(金)にパレスホテル東京にてイオンスカラシップ修了式を開催しました。修了生34名が参加し、当財団の理事・監事・評議員15名と、世代や立場を超えた交流の場となりました。修了生たちは大学院への進学や日本企業への就職など、それぞれが新たなステージに進みます。日本で得た学びや経験を生かしながら活躍していく修了生に今後の更なる成長が期待されます。会場では修了生が日頃の感謝を込めてメッセージカードと一輪の花を役員へ手渡す場面が各テーブルで見られ、温かな空気に包まれました。

AEON Scholarship イオン スカラシップ

日本と母国の架け橋となる
～修了式～



流通科学大学アハメド・エムデイ・マフィンさんによるスピーチ

式典の中で上映されたスライドショーでは、修了生たちの奨学生認定期間における学びや挑戦、交流活動の様子等が紹介され、それぞれが歩んできた成長の足跡を振り返りました。修了生代表スピーチでは、バンングラデッシュ出身のアハメド・エムデイ・マフィンさんが登壇し、奨学生としての二年間を通じて得た学業面での成果に加えて、責任感や主体性、日本語力の向上について述べるとともに、関係者への深い感謝を表明しました。アハメドさんは将来、安全・安心を支える技術者として成長し、企業の発展に貢献したいと決意を語りました。



自国の民族衣装を着て合唱する修了生たち

終盤には、10カ国の修了生がそれぞれの国を代表して民族衣装をまとい、「上を向いて歩こう」の合唱を披露。会場は一体感と感動に包まれました。本式典は修了という節目を祝うとともに、参加者一同にとって新たな未来への出発を実感する意義深いひとときとなりました。



アジア6カ国で開催！ 2025年度 イオンワンパーセントクラブ 日本語スピーチ コンテスト

最終審査会・訪日研修を開催

文部科学大臣賞を受賞したハノイ大学
ダオ・グエン・ハー・アインさん(ベトナム)



参加者、審査員の方々と記念撮影

予選を通過した24名が最終審査に挑む
2026年2月9日(月)から12日(木)にかけて、東京都内で2025年度日本語スピーチコンテスト最終審査会・訪日研修を開催しました。
昨年、アジア6カ国で開催した予選大会を経て選ばれた大学生24名が、「私にできる社会貢献」をテーマに最終審査に臨みました。各国代表の参加者は日々実践している社会貢献活動やこれまでの経験を生かして、将来挑戦したいことを流暢な日本語で堂々と発表しました。審査では、構成に起承転結があるかや、イントネーションの正確さ、審査員からの日本語の質疑応答に回答できるか等を基準に文部科学大臣賞を含めた7名の受賞者を表彰しました。

日本語スピーチコンテストの受賞者

	国名	大学名	氏名
文部科学大臣賞	ベトナム	ハノイ大学	ダオ グエン ハー アインさん
イオンワンパーセントクラブ賞	インドネシア	バジャジャラン大学	コニタ アツザラ セティアワン プトリさん
優秀賞	インドネシア	ガジャマダ大学	アウレル マハラニ プトリさん
	インドネシア	タクミ大学	ヤンセン プラタマさん
	タイ	チェンマイ大学	パヌワット グンチョンバガさん
	ベトナム	ハノイ国家大学外国語大学	ホアン チャー ミーさん
	マレーシア	スルタン イドリス教育大学	ムハンマド シャリザルテビン アブデラさん

お茶の水女子大学 森山新名誉教授より講評

どのスピーチも甲乙つけがたく、スピーカーの皆さまが社会貢献への想いを真摯に言葉にされる姿に深い感銘を受けました。皆さまの想いが伝わる瞬間に立ち会えたことを心よりうれしく思います。



和菓子づくり体験では、桜の練り切りを作りました。

訪日研修で日本の伝統文化に触れる
訪日研修では東京都と千葉県内において日本の習慣や文化を学ぶ体験を行いました。歌舞伎体験では本物の衣装を着用し、見得の練習や踊りの体験を通し、日本の伝統文化に触れました。和菓子作り体験では、おもてなしの心と、和菓子が四季折々の移ろいを表現するアイテムであることを学びました。生地の練り方や丸め方のお手本を見習い、練り切りを作りました。日本の文化や考え方が、和菓子の背景に深く根付いていることを知る機会となりました。

イオンワンパーセントクラブの最新の活動をピックアップしてご紹介いたします！



徳田教授(当財団理事)より「子どもの心を強くする秘訣」について講演いただきました

子育て応援イベント 「イオン すくすくラボ」の開催

2026年2月21日(土)、長野県のイオンモール須坂にて、乳幼児から未就学児のお子さまとその保護者の方を対象としたセミナーイベント「イオン すくすくラボ」を開催しました。今回のイベントでは、筑波大学名誉教授の徳田克己教授によるセミナーおよび自然素材ならではのぬくもりに親しむ、木育ハンドメイド協会Artisanの講師による木育セミナーとワークショップを実施しました。徳田教授のセミナーでは、子どもの自己肯定感を高めるためのポイントや、子どもに失敗体験をさせることの大切さについてのお話がありました。



自クラブの活動を共有し他校と意見交換

イオン エコワンングランプリ エリアミーティングを実施

2026年3月20日(金・祝)、大阪にて「イオン エコワンングランプリ エリアミーティングin大阪」を開催しました。当日は、西日本の高校を中心に17校51名が参加し、第14回イオンエコワンングランプリ受賞校による活動発表に加え、各校のポスター発表、環境カウンセラーによるワークショップを実施しました。参加者は、グループワークでの交流や意見交換を通じて、今後の活動のヒントを得る機会となり、「他校の人から環境保全活動を地元の活性化につなげている事例を聞き、刺激を受けました」という声も聞かれました。



多くの人に見守られながら、お神輿が松崎神社から出社しました

ふるさと未来支援 60年に一度の神幸祭を支援

2026年3月8日(日)、千葉県香取郡多古町の松崎神社で神幸祭が斎行されました。当財団は、2025年度の「ふるさと未来支援」の助成先に、神幸祭を選定しています。松崎神社の神幸祭は1606年に始まり、以来60年ごとの丙午の年に行われており、今回が8回目。神社を出発したお神輿は、神社前を練り歩いたのち、匝瑳市野手の海岸へ向かい本祭が行われました。野手浜海岸では北総地域の神輿団体・お囃子団体も加わり、会場は大きな賑わいを見せました。本祭後には、海に入ってお神輿を担ぐ「お浜降り」も行われました。



(左)岩手県上閉伊郡大槌町 町長 平野公三氏
(右)公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 理事長 渡邊廣之

岩手県上閉伊郡大槌町 林野火災 緊急支援の実施

2026年4月22日(水)に岩手県上閉伊郡大槌町で発生した林野火災により、甚大な被害がもたらされました。当財団は、被災地域の一日も早い復旧・復興を願い、緊急災害支援金1,000万円を5月1日(金)大槌町役場にて贈呈しました。大槌町の平野公三町長は、「貴団体よりいち早く温かい手を差し伸べていただいたことは、被災をされた方々そして、復旧・復興に立ち向かう私たちにとって何よりの励みとなります。」と述べられました。当財団は被災地域の一日も早い復旧・復興を心より願っております。



首里城正殿の屋根に取り付けられている「龍頭棟飾」のパネルと共に記念撮影

首里城の復興は、みんなの願い！

首里城 復興支援



**首里城の「今」がわかる
首里城復興祈念展を開催**
2026年1月13日(火)から18日(日)の6日間、宮城県イオンモール名取にて、首里城復興祈念展を開催しました。首里城復興祈念展は、2019年に焼失した首里城の再建を願って各地で実施しているイベントで、首里城の復興までの経緯をまとめた年表や、残存している瓦部分や竜頭棟飾、復興のために沖縄県に寄せられた寄付金の活用状況などを展示しています。また、イオンチャイルズクラブの子どもたちが描いた首里城ポスターコンクールの上位入賞作品と、近隣エリアの応募作品も併せて展示しています。



オリジナルデザインの缶バッジを作ります

今回は、一般財団法人沖縄美ら島財団と、イオン東北株式会社のご協力のもと、1月17日(土)と18日(日)にワークショップイベントを実施しました。ワークショップでは、正殿工事で使用されている木の端材を使用したストラップ作りと首里城のオリジナル缶バッジ作りを行い、2日間で約400名の方に体験していただきました。
今後は、羽田空港など多くの旅行者が行きかう空港で首里城復興祈念展の開催を予定しています。



首里城の端材を使ったキーホルダーに、スタンプを押したり好きな絵を描きます

首里城復興祈念展の今後の開催予定

- 5月 イオンモール京都桂川
イオンモール沖縄ライカム
- 8月 羽田空港
- 10月 中部国際空港
那覇空港

財団概要

笑顔あふれる未来をつくる。

イオンワンパーセントクラブは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的に、グループ各社の参画のもと、1990年に設立されました。

以来35年以上にわたり、お客さまにイオングループをご利用いただき、生まれた利益の1%相当額をもとに、「青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域社会の発展への貢献」「災害復興支援」を主な活動領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

ご寄付のお願い

次代を担う子どもたちのために、皆さまのご支援をお願いいたします。

イオンワンパーセントクラブでは、子どもたちの教育や国際交流、地域文化の保全などの活動に取り組んでいます。なお、当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当財団への寄付金については、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。

ご寄付の方法

クレジットカード
決済

WAON POINT
利用

銀行振込

右記のコードを読み取り、
寄付受付画面にお進みいただき、ご寄付の方法をお選びください。

<https://aeon1p.or.jp/1p/about/donation/>



編集後記

この度の岩手県上閉伊郡大槌町で発生した林野火災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

「イオンワンパーセントクラブ活動レポート」は2023年5月の発刊以来、当財団の活動を季刊でお伝えしてまいりました。本号で活動レポートは休刊とさせていただきます、年次報告として皆さまにお届けするとともに、ホームページでの情報発信を強化してまいります。これまでご愛読賜りましたこと心より御礼申し上げます。

今後ともイオンワンパーセントクラブをよろしく願い申し上げます。

(佐伯)

公益財団法人

ワンパーセント

イオン1%クラブ

[発行元] 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1

Tel 043-212-6023 Mail 1p@aeon.info

右記のコードを読み取ると
当財団の活動詳細をご覧いただけます。

<https://aeon1p.or.jp/1p/>

